

2020年9月16日第94回BABOK研究会議事録

PM学会中部支部

IIBA日本支部

1. 日時

2020年9月16日（水）19:00～21:00

2. 場所

Zoom（Web会議システム）

3. 出席者

（敬称略順不同）

近藤、小倉、川島、金田、門野、河村、鈴木（記）以上8名

4. 議題

- （1） 離島ワーケーションを題材としたBAO活動の研究
- （2） その他連絡・相談事項など

5. 議事

- （1） 離島ワーケーションを題材としたBAO活動の研究

諸般の事情から佐久島合宿は延期となったこともあり、今後の進め方について近藤座長から提案があった。

9月1日に開催された「ビジネスアナリシス サミット 2020 オンライン」で近藤座長が当研究会の前年度活動の成果を発表されたが、そのなかで、全体を俯瞰した「ビジネスデザインの詳細」にBAOの活動内容が集約されているのではないかと、再認識された。

佐久島ワーケーションを題材としたBAO活動の研究についても、同様の手順で進めていってはどうかと考えた。合宿を延期したことで、前提とする生の情報が入手できなかったが、一度の合宿で十分な情報収集ができるか疑問もあり、佐久島に関しては近藤座長がWEB上から情報を収集しており、ワーケーションについては鈴木が入手したクロス・マーケティングのアンケート結果があるので、それらをベースに進めてはどうか。合宿は検証のために実施してもよい。

ということで、WEB上から収集した情報について、画面共有しながら近藤座長から解説。続いて、アンケートについて、画面共有しながら鈴木が説明。

アンケートでは8月に実施されており、既にコロナによる影響が出た後の調査と言える。テレワークとワーケーションについて業種や職種、年齢層などの切り口で実施されており、テレワークとワーケーションでは、異なる結果になっている。

例えばテレワークでは企画・広報部門や、情報システム部門の利用が多く、ワーケーションでは社長室・経営企画室や人事が多くなっていた。

中部地区は製造業が多いが、製造部門は向かないのではないかと、営業職も少ないが、リモート営業など、手段を整えば伸びる可能性がある、など、議論が行われた。

今後の進め方について、ひとまず近藤さんのWEB調査結果をもとに、次回までに各自ペルソナを考えてくる。様々な条件を想定するため、佐久島が求める来島者のペルソナに限定せず、ワーケーションにやってきそうな人を想定して考える。ワーケーションの形も特に規定せず、自由に検討してよい。昨年度のMaaSの成果物を参考にしてもよい。

(3) その他連絡・相談事項など

・ 近藤座長より相談

12月17日にIIBAセミナーで今年度の活動について、発表をしたいので、12月までに今年度の活動を形にしたい。

ペルソナ定義、CJM作成、因果MAP作成、SDに纏めることを考えると、あと4回は実施する必要がある。月次だと時間がないので、どう進めるか。

合宿実施案、宿題でカバーする案、など出たが、前年度同様、隔週開催に決定。

今後の開催スケジュールについて、12月めどに今年度の活動成果を纏めるため、次回から隔週開催とする。下記は予定。

- 第95回 2020年9月30日（第5水曜）ペルソナ定義
- 第96回 2020年10月14日（第2水曜）CJM作成
- 第97回 2020年10月28日（第4水曜）因果MAP作成
- 第98回 2020年11月11日（第2水曜）SD作成
- 第99回 2020年11月25日（第4水曜）サマリー版レビュー
- 第100回 2020年12月9日（第2水曜）正式版レビュー

・ 資料共有について

SlackおよびFaceBookで情報共有しながら進める。

ひとまず鈴木が今回の資料を展開する。

6. 次回予定

(1) 日程

第95回 2020年 9月30日(水) 19:00 ～ 21:00

(2) 場所

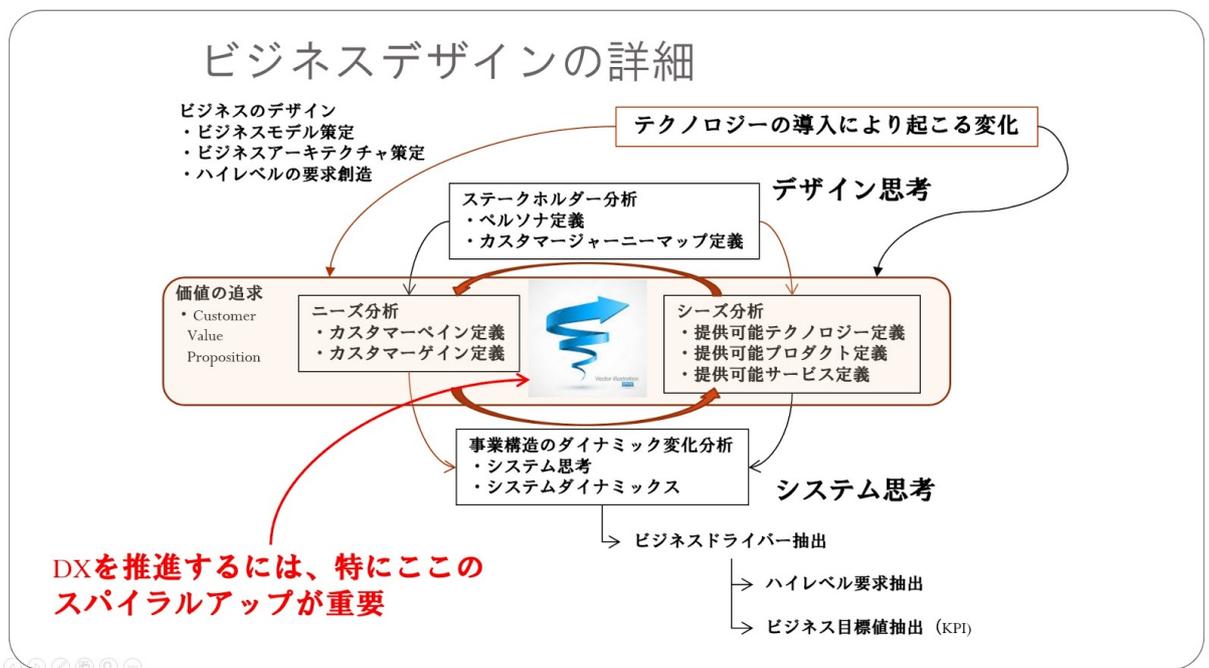
ZOOM (Web会議システム) 予定

(3) 議事予定

ペルソナ (宿題) について、議論

7. 成果物

(1) ビジネスデザインの詳細 (俯瞰図)



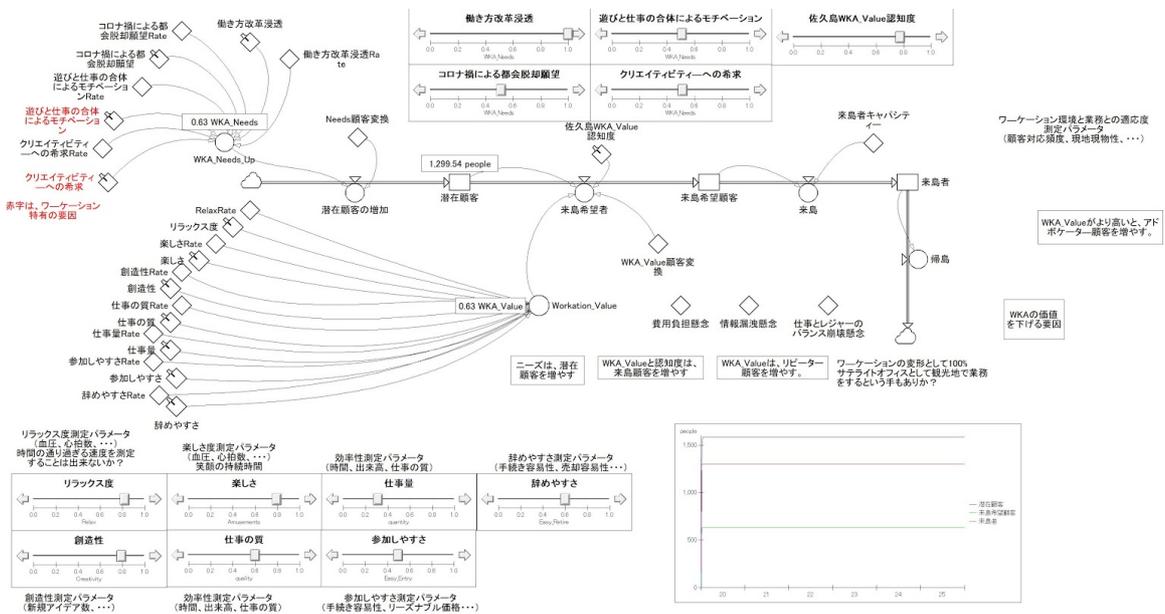
(2) 佐久島の情報

人口252人(65歳以上142人)の離島です (2015年4月1日現在)
面積は173ヘクタール(東京ディズニーランドの約3.5倍)で、海岸線の長さは11.6キロメートル。島の80%以上が里山で、豊かな自然と穏やかなのんびり生活の風情が楽しめます。信号機もコンビニもなく、ゆっくりとした時間が流れるこの島には、3つの大きな魅力があります。
① アートの島 佐久島は1996年からアートによる島おこしに取り組んでいます。1年を通じてアートビュートック(島内一円に展示されたアート作品を巡るスタンプラリー)が楽しめる上、さまざまなアートイベントも随時開催されています。
② 自然の島 豊かな自然にすっぴりと包まれた島。四季折々の野花在咲き、緑の草木が茂ります。もちろん海辺の動植物がいっぱい。野鳥や里山に棲む生き物たちの宝庫でもあります。のんびりとネイチャー散策できて、心もからだもほっとする島です。
③ グルメの島 アサリやタコがおいしい。カキオマモイウの揚魚がどれもウマイ。新鮮だから魚介類がおいしいのは当たり前ですが、島の気候と豊かな土壌のおかげで佐久島は野菜もオアシスなのです。アサリ丼やタコしゃぶなど、名物料理もいろいろ!
子供から大人まで、みんなで取り組む島おこし 温暖な気候と豊かな海の幸に恵まれ、江戸時代には海運で栄えた佐久島。けれども昭和22年の1,634人をピークに人口は減り続け、主要産業である漁業を支える後継者の育成にも困難をきたし、島の発展は長らく阻まれてきました。 アートを軸とした島おこしがスタートしたのは、平成7年の国土庁(現在の国土交通省)の視察がきっかけ。以来、島民と行政と島外の一般ボランティアとが手を携えて、島の産業、地域文化、自然環境、景観などを活用した、さまざまな活動を展開しています。 特筆すべき点は、小・中学校との連携によって、子どもたちが積極的に活動を担っていること。子どもから大人(もちろん高齢者も!)まで、お互いに学び合いながら、島民みんなが力を合わせて島の活性化に取り組み、そこに多くのボランティアの皆さんが関与しているのが、佐久島ならではの島おこしの特徴です。
2. 定住のために 佐久島で暮らすなら、これが大事 佐久島での暮らしは、インフラの整った本島ほど便利ではありません。けれども、穏やかな海と豊かな自然に囲まれてゆったりと過ごしたい方には最適です。また人口が少ないからこそ人と人のつながりが強く、助け合って生活しています。さらには井天さんや弘法さんなどをお祀りして日々感謝する風習も生きています。このような島の状況を理解した上で移住していただくことが、とても重要となります。佐久島では、次のような方に空き家物件などの紹介をいたします。 佐久島に住所を移し、生活の本拠とする方 原則として60歳以下の方(家族構成により、配慮) 健康な方(遠隔治療や介護が常時必要な方は困難) 島内の各種団体に加入し、活動に参加する方(町内会や消防団など) 島の風土・文化・風習・伝統を大切にされる方

佐久島家へのストーリー
・人口が減少傾向にあり、しかも、高齢者が半数以上となっており、若者を呼び込みたいところだが、産業が発展するのはいいが、豊かな自然、島の静けさといった現在の島の魅力が破壊されることは避けたい。そのための人口は増えなくても2000名程度に抑えたい。
・漁業、観光業で島の経済を支えているが、もう一つ産業の柱を作りた。観光客の集まるまでできることからワーケーションへ人を呼び込み、ゆっくりは、サテライトオフィス、離島本社へと産業形態を変遷させたい。そうするとコンビニ、スーパーなどのインフラも必要になるが、あまり都市化はしたくは、離島としての素朴さは残したい。
・狭い離島なので島内の交通手段は、自然に優しい小型の電気自動車などのシェアカーを中心にしたい。
・ワーケーション参加は、佐久島内での業務を中心に行うが、週に1~2回、名古屋や東京の顧客に面会することもあり、陸との交通の円滑が重要になる。

進め方
二つとテクノロジーのシーズを突き合わせる2019年のプロセスは、やはり有効だと確信。
ここから再度仕切りなおしてみたいかがでしょうか?

(3) ワーケーションのSDモデル



8. その他

特になし

—以上—